

令和5年度 系の研究活性化プロジェクト成果報告書

系名	表現活動教育系
プロジェクト名	多様性を有する学生を対象とした大学体育の在り方について - 「異文化感受性尺度」を用いて -
プロジェクト概要	<p>近年、世界中でグローバル化が進む中、日本国内の外国人数も増加の一途を辿っており、それに対応するための学校教育に注目が集まっている。一方で、インターネットやソーシャルネットワークサービスなどの非現実的な世界の普及も急速に進んでおり、人びとが世界の垣根を超えて関わり合うが、しかしそれは間接体験に過ぎず、その狭間で生きる子どもたちに影響を与えている。このように日々変化する社会を生き抜く中で、異文化コミュニケーション能力は必要不可欠であり、その中でも異文化感受性の必要性が高まっていることは無視できない事実である。</p> <p>そこで、本研究では、コミュニケーション能力に大きく寄与する教科としての体育授業に着目し、「異文化感受性発達尺度」(Intercultural Development Inventory) (以下 IDI とする) を使用して、対面でのスポーツ実技の授業体験が、大学1年生の身体的精神的健康、異文化間でのコミュニケーション能力にどのような影響を与えているのかを調査し、体育授業を展開する上で、指導者が心得おくべき点を提案することを目的とする。</p> <p>これまでの成果として、受講生 12 名を対象に全 15 回の体育授業を行い、初回および最終授業時の IDI 得点、毎授業後のリフレクションシートのデータ収集を完了した。リフレクションシートでは、体調の各側面(栄養、感情、身体、睡眠)について 5 段階、授業の振り返りの各側面(積極的な参加、仲間との協力、楽しさ、リフレッシュ、技能習得)について 4 段階で回答を求めた。主な結果として、IDI 得点の高さが出席回数と関連すること、授業の振り返りが前向きであるほど授業終盤の体調に関する項目の得点が良い傾向などが見出された。</p>
プロジェクト構成 員 (リーダーに※)	橋本 恒※ 飯野 裕子 神藤 隆志 山口 孝治